

H27北山校の研究 [佐賀県教育委員会（教育課程）・佐賀市教育委員会研究指定（学力向上）]

1 研究主題名 人と関わる力や思考力・活用力を高めて学力向上を図る
～直接交流や国内外の遠隔地交流を取り入れて～

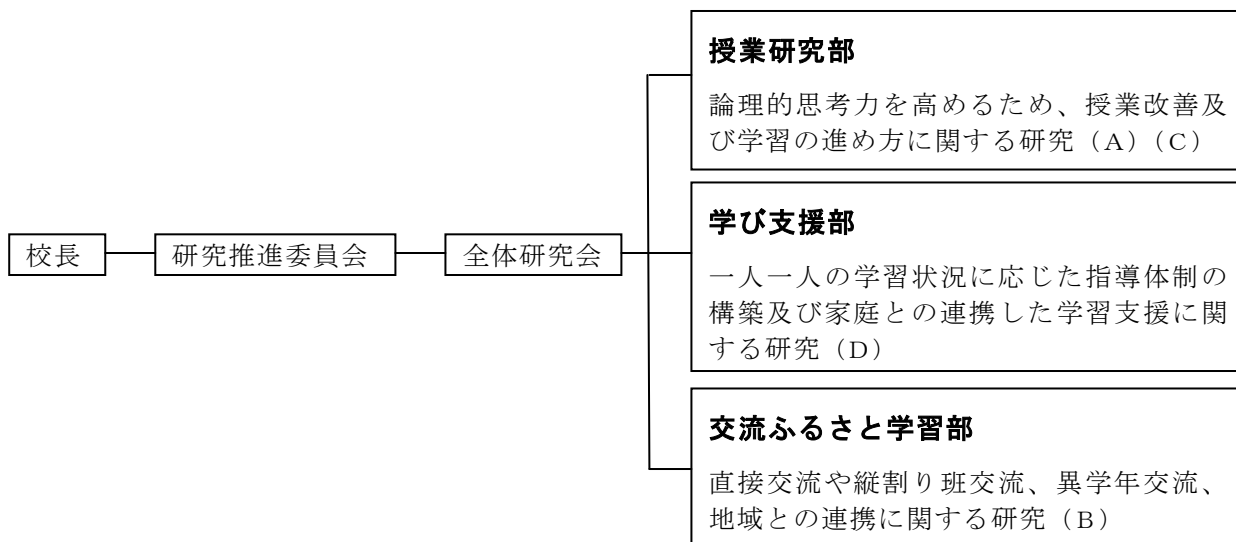
2 研究主題設定の趣旨

本校は、小規模校及び準へき地校であり、人と関わる力に課題がある。児童生徒一人一人は真面目で、規律正しい。しかし、小規模校ゆえに人間関係が固定化し、人間関係構築力を十分に身に付けぬまま9年間を過ごす可能性がある。

そこで、平成26年度より次の①②に示すような手だてをとって研究を進めてきた。①直接的な交流学习の機会を増やす。②オーストラリアの Lismore 校との交流経験を生かして、遠隔地交流実施による交流学习の場を国内外に広げる。成果としては、直接交流や国内外の遠隔地交流を通して、プレゼンテーション能力や質問力、応答力、コメント力などコミュニケーション能力が高まりつつある。課題としては論理的思考力の育成が不十分である。その手だてとして、思考要素に着目した次の①②③を示す。①思考要素を意識した授業展開の工夫②思考要素のキーワードを意識した児童生徒の説明力の育成③思考要素を意識した教師の課題提示・発問の工夫である。

平成27年度も直接交流や国内外の遠隔地交流を取り入れることにより、より双方向的な、インターアクティブな授業展開が期待できる。また、そのような体験を通して、人間関係構築力が高まる。それとともに、思考要素の活用を通して深まりつつ思考力とともに、判断力・表現力がより高まり、基礎的基本的知識・技能を活用する力の向上の図ることができるであろう。そのことが学力の向上につながると期待し上記主題を設定した。

3 研究組織



4 研究の内容・方法等

研究の内容	研究の方法	目指す姿
(A) 言語活動を充実させ、論理的思考力を高める	思考要素やそのキーワードを活用した授業展開により児童生徒の説明力を高め、教師の課題提示・発問力を高める。	自分の考えを伝え合い、深め合う児童生徒
(B) 直接交流学习をコミュニケーション能力の育成に生かす	大規模校や小規模校、特別支援学校との交流学习を通して、人との接し方を身に付けさせる。	自分から話しかけ、友だちをつくろうとする児童生徒
(C) 国内外の遠隔地交流学习をコミュニケーション能力の育成に生かす	国内外の遠隔地交流を通して、よりインターアクティブな授業展開モデルを開発する。	プレゼン力、質問力、応答力など基礎的基本的知識・技能を活用する力を身に付けた児童生徒
(D) 学習の手引きを活用して家庭学習習慣の確立を目指す	個人カルテを充実させ、学習の手引きに記載した家庭学習時間のめやすや自学ノート活用の具体例を手がかりに自らテーマを決めて学習に取り組ませる。	主体的に家庭学習に取り組む、自律した学習者としての児童生徒

5 期待される成果

- (1) 論理的思考力育成を通して自分の考えを伝え合う力や深め合う力が高まる。
- (2) 大規模校等との直接交流の場を通して人と関わる力が高まる。
- (3) 国内外との遠隔地授業の機会を通してプレゼン力、質問力、応答力、コメント力など、基礎的基本的知識技能を活用する力が高まる。
- (4) 学習の手引きや個人カルテ、自学ノートの活用により、家庭学習の充実を図り、主体的に家庭学習に取り組む、自立した学習者としての児童生徒の育成ができる。